

「フードバレーとかち」の取組と成果

第一期 (H22~H25) / 第二期 (H26~H29)

農林漁業を成長産業にする

- 戦略1 生産振興 (食料生産力を伸ばす)
- 戦略2 生産基盤整備 (活力ある食生産の基盤をつくる)
- 戦略3 担い手育成 (未来を担う生産者を育てる)
- 戦略4 試験研究機関との連携 (知的機関とスクラムを組む)
- 戦略5 農林水産物の安全・安心の確立 (食の安全安心を確保する)

【主な取組内容】

- ・国際戦略総合特区の指定
- ・JAの農産物貯蔵施設、集出荷施設の整備支援
- ・十勝バイオマス産業都市構想の推進による設備投資支援
- ・JAの農産物加工施設等の整備支援
- ・スマート農業の導入促進 (ロボットラクタ・農業用ドローン導入支援)
- ・農研機構が主体となる「北海道スマートフードチェーンプロジェクト」(R5年度名称変更)への参画
- ・十勝農業試験場と協力し市場需要を捉えた新規作物のマッチング
- ・農林業育成資金貸付による先進農業の推進に係る支援
- ・黒毛牛の生産振興に対する巡回指導及び和牛改良組合の活動等への支援
- ・森林整備事業の推進及び森林認証の周知拡大を図る
- ・無加温パイプハウスの施設の整備支援
- ・新規参入者の実践的支援や農家後継者の確保育成等
- ・地域連携フェロー制度に基づく、帯広畜産大学、とかち財団、市の関係者による情報交換の定期開催
- ・化学肥料、化学合成農薬を削減する環境保全型農業に対する支援
- ・川西、大正地区における光ファイバー網の整備
- ・十勝バイオガス開発事業推進協議会(H29)の設立や、川西バイオマス㈱(H30)への支援によるバイオマス利活用の推進

戦略6 製品・研究開発 (とかちの食の価値を探り出す)

戦略7 創業・企業立地 (とかちの価値を活かして起業する)

戦略8 経営基盤強化 (とかちの企業力を高める)

戦略9 人材育成 (とかちの食の価値を活かす人を育てる)

戦略10 ブランド化推進 (とかちのブランド力を活かす)

戦略11 連携促進 (プレイヤーの結びつきを深める)

戦略12 関連産業群の集積 (とかちの価値を活かす産業を集積する)

【主な取組内容】

- ・十勝産小麦の地元消費拡大とブランド化に向けた取組推進
- ・フジッコとの大豆ビニートールを活用した機能性成分の抽出
- ・明治との乳の健康価値の創出に向けた実証試験、「十勝ヨーグルトプロジェクト」の推進
- ・ものづくり総合支援補助金による食関連の新製品開発の支援
- ・地域資源を活用した新商品・製品開発への支援、工場の新增設への支援
- ・北海道畜産公社との畜場整備の支援及び企業誘致の促進
- ・地域内における食文化向上の取組(フードバレーシェフの会、十勝酒文化プロジェクト)
- ・十勝・イノベーション・エコシステムによる創業・起業の促進
- ・人材育成事業の事業者支援

戦略13 十勝の魅力の発信 (とかちの価値を発信する)

戦略14 食・農林水産物情報の発信 (とかちの食を広める)

戦略15 観光振興 (とかちに人を呼び込む)

戦略16 物産振興 (とかちのモノを売り込む)

戦略17 流通・販路拡大 (とかちの食を国内外に広める)

戦略18 食育の推進 (とかちの食生活・文化を育む)

戦略19 地産地消の推進 (とかちでつくり、とかちで食べる)

【主な取組内容】

- ・東アジア・東南アジアでの観光プロモーション、滯在型ツアーの造成、チャーター便の増加
- ・首都圏や関西圏のホテルや飲食店における十勝産フェア・小ロット物流構築の検討
- ・JICA草の根事業を通じた事業者の海外進出
- ・「とかちのから魅力発信PJ」の設置によるオール十勝での観光PR
- ・銀の匙等を活用したPR事業
- ・道東最大級の食イベント「とかちマルシェ」の開催
- ・フードバレー交流都市との地域イベントの相互交流
- ・食育推進サポートなど、関係機関と連携した「食育」事業
- ・農村ホームステイ受け入れやインセンシップ事業の取組

第三期 (H30~R3)

【主な取組内容】

- ・国際水準GAPの普及促進に関する研修会の開催
- ・JAの農産物貯蔵施設、集出荷施設の整備支援
- ・十勝バイオマス産業都市構想の推進による設備投資支援
- ・エゾシカヒグマの隣接市町村での越境捕獲を継続
- ・JAの農産物加工施設等の整備支援
- ・スマート農業の導入促進 (長い木洗浄選別・包装設備、冷凍とろろ製造施設)
- ・GPSガイダンス、搾乳ロボット等先進機械導入支援によるスマート農業の推進
- ・「十勝地域組合総合支援システム」の構築支援に伴うICT推進環境の整備
- ・「ISOBUS普及推進会」への参画
- ・農研機構を中心とした「北海道十勝発スマートフードチェーンプロジェクト」への参画
- ・地域連携フェロー制度に基づく、帯広畜産大学、とかち財団、市の関係者による情報交換の定期開催
- ・化学肥料、化学合成農薬を削減する環境保全型農業に対する支援
- ・川西、大正地区における光ファイバー網の整備
- ・十勝バイオガス開発事業推進協議会(H29)の設立や、川西バイオマス㈱(H30)への支援によるバイオマス利活用の推進

第四期 (R4~現在)

主な成果

◆十勝管内農協取扱高
H22年 2,380億円
⇒ R7年 3,846億円

◆食料自給率
H25年 1,100%
⇒ R7年 1,295%

◆畜産公社十勝工場輸出実績
H25年 0.6トン
⇒ R6年 257.8トン

◆国際戦略総合特区の制度支援による設備投資の誘発額 約580億円

◆十勝バイオマス産業都市構想による設備投資の誘発額 約285億円

今後の方向性

- ・持続可能な農業の構築 (環境への配慮、耕畜連携)
- ・スマート農業の振興 (ICT技術活用による省力・効率化)
- ・稼ぐ農業 (農畜水産物の高付加価値化)
- ・国際競争力の強化
- ・新たな知見の導入 (大学・試験研究機関、企業間連携)
- ・災害に強い農業 (気象変動に対応した生産基盤)

強化された地域産業の成長基盤を活かし次のステージへ

- ・ものづくりのレベルアップ (市場トレンドへの柔軟な対応)
- ・物流の改善 (少量多種混載、大都市圏への迅速な発送)
- ・起業家・経営者づくり (これから十勝を担う人材の確保)
- ・新事業・新分野への挑戦 (事業者の進出支援)
- ・新たな価値の創出 (加工残さ、未利用資源の活用)
- ・十勝ブランドの強化 (産官学連携による総合的な取組推進)

- ・産業、自然を活かした観光戦略 (食・農業・アウトドアを活かした観光振興)
- ・大都市圏での十勝PR (事業者マッチング・ハイブリッドマーケットへのアプローチ)
- ・食文化の向上 (日本の食を支える地域としての責任のある食育)
- ・地産地消の推進 (十勝産農畜産物の域内消費拡大)
- ・空港運営委託による効率的な運用
- ・「十勝ファン」を活用した施策展開

コロナウイルス、気象変動
自国保護主義(グローバル化の否定)
分断・不安定化が拡大する世界
↓
日本の食を支える
十勝の役割は益々重要に
「食の安全保障」

十勝の魅力を売り込む

戦略13 十勝の魅力の発信 (とかちの価値を発信する)

戦略14 食・農林水産物情報の発信 (とかちの食を広める)

戦略15 観光振興 (とかちに人を呼び込む)

戦略16 物産振興 (とかちのモノを売り込む)

戦略17 流通・販路拡大 (とかちの食を国内外に広める)

戦略18 食育の推進 (とかちの食生活・文化を育む)

戦略19 地産地消の推進 (とかちでつくり、とかちで食べる)

フードバレーとかちのプラットフォーム

地域活性化モデルケース (H26~)

十勝バイオマス産業都市構想 (H25~)

国際戦略総合特区 (H23~R3)

十勝定住自立圏形成協定 (H23~)



第一期 (H22~H25) / 第二期 (H26~H29)

地域産業支援プログラム表彰事業
イノベーションネットアワード2017
農林水産大臣賞受賞

◆帯広市税収入額
H22年 213億166万円 ⇒ R6年 230億3,137万円
◆十勝の食品工業製品出荷額等
H22年 3,096億8,737万円 ⇒ R5年 3,930億3,812万円

産業以外にも取組効果
十勝一体の広域消防体制の確立
「とかち広域消防局」(H28)

第四期 (R4~現在)